

1、 開催日時：平成 20 年 11 月 22 日

1、 開催場所：ホテルアイリス（本荘市）

1、当技師会理事数 25 名

参加理事：菅原博之、藤田美好、阿部 毅、宮野勇徳、三浦 徹、奈良悦子、  
岩谷幸栄、三浦浩子、川上 登、伊藤 功、伊藤良子、小笠原 彰、  
佐藤 寛、田中喜美子、中川 聡、鈴木 睦子、遠藤正志、高橋和則  
以上 18 名

欠席（○委任状提出者）○安部真理子、○榊田由美子、○伊藤優子、畠山義彦、  
菊地孝哉、渡部 晃、高橋 稔 以上 7 名

参加理事 18 名、委任状提出理事 2 名、計 20 名で総理事数の過半数を超えており  
今回の理事会は成立した。

1、書記：伊藤良子

1、議事録署名人：宮野勇徳、佐藤寛

1、議事内容：菅原会長が議長となり、資料に沿って各担当者より内容の説明を受けなが  
ら審議された。以下に審議内容・決定事項を示す。

議 事 議長 菅原会長

<書記の選出>

●書記は、中央 県北 県南 由利の順で行われており、今回は中央より伊藤良子が選出  
された。

<議事録署名人の選出>

●宮野勇徳、佐藤 寛の 2 名が選出された。

1. 会長挨拶

今回は県学会にあわせての理事会の開催となります。内容について盛りだくさんで大変恐  
縮ですが、前半については東北学会準備実行委員 4 名の新潟学会視察報告をし、後半は次  
第に沿って議事を進めたいと思いますのでよろしく願いいたします。

2. 平成 20 年度第 3 回理事会（平成 20 年 8 月 29 日開催）の議事録の確認

- ・ 学術部門の残金についてはそのまま変更なし。
- ・ 技師会名簿についてはこのあとの議事において報告する。
- ・ 新人研修会・・・参加者 40 名ほどであった。

- ・福利厚生事業（鈴木理事）1月末に久保田城散策を予定している。
- ・議事録署名人について 佐藤寛理事が欠席のため三浦徹学術部長に変更

### 3. 議事

#### 0) 学会視察報告

三浦徹学術部長：

視察ポイントは受付、クローク、各会場設営状態、演題進行状況、健康展（健康祭）の流れ、記念式典の進行状況、情報交換会の企画など。情報交換会では次年度の広報を行ってきた。

- ・前準備を前日の午前から始めていた。前日 16 時には段取り八分くらいと余裕があった。設営作業を早めにできるとよい
- ・受付スタート時間が 9 時だったが、混雑状況をみて早めにしてもよいと思った。
- ・クローク預かり時間をはっきりさせる
- ・大会場では 8 名、その他の会場は 5～6 名の人員配置
- ・内容によって会場を割り振る
- ・健康祭は 700 名の参加
- ・顕微鏡コーナーは、新潟の検査学校から貸出
- ・特別企画ウォータークルージング 160～200 名か。（会場からすぐ乗船できた）
- ・情報交換会の企画は生バンド、新潟芸者。会場が狭かったように感じた

田中喜美子理事：

- ・入口に案内係の配置を提案
- ・クロークの時間
- ・ポスターは手作り？発注？
- ・受付にフリーで配置
- ・記名台は便利だった
- ・ランチョンの整理券（手作り？）
- ・場外の機器展示
- ・お土産売り場がさみしい
- ・冊子を用意した検査技師紹介コーナー
- ・ごみ箱は適宜設置する
- ・情報交換会のウェルカムドリンク（各支部から推薦）
- ・料理は地元産を強調、催しとして抽選会
- ・責任者は無線機を使用、指示系統がしっかりしている印象

### 1) 秋臨技名簿の進捗状況について

藤田副会長：

10月に異動により連絡責任者の変更があったが、最終校正は完了している。旧市町村名のまま登録されている施設があるようなので正誤表で対応したい。1000部くらい印刷し配布する。

### 2) 『微量採血用穿刺器具の不適切な使用について』の最終報告

阿部副会長：10月27日付で保健所に追加報告をした。

- ・相談者1名があり肝機能、血液検査等に異常はみられなかったこと
- ・今後の事業での血糖測定については完全ディスプレイを採用すること

保健所からは今後の相談窓口の継続対応してほしいと言われた。

これまでの経費は広告料、人件費、検査料を含め51万円位である。

菅原会長：9月1日付で施設宛てにこのことに関する報告と対応について文書を送付しているが、一部の会員に周知されていないようである。この学会において直接会員に報告をしたいのでミニシンポジウムの前に時間を少しもらって話したい。

上の会長の申し出に対して学会実行委員長の遠藤理事より了承を得た。

### 3) 平成20年度第1回東北代表者会議の報告（出席：菅原会長、阿部副会長）

#### ●公益法人化について

日臨技の方針としては、各都道府県単位で全国的に公益法人化に向けて動いていたが、ここに来て“一般社団法人”という考えの技師会（宮城、大阪）が出てきている。公益法人であれば50%以上の公益事業を行わなければならないという制約に対して、節税の面でメリットがあるのかということが根底にあるようだ。これからの日臨技の対応について様子を見てみないとわからない。いずれにしても“足並み揃えて”という状況ではない動きがある。

公益法人化へ向けての事業の取り組みの例として、福島県では県とタッグしてSTDや食中毒などに関して小中学校へ出向いた事業をしていることを報告する。

#### ●来年度に向けて

- ・日臨技全国研修会（生物化学部門）を6月か7月に実施する。
- ・第50回東北医学検査学会を秋に実施する。

なお、情報提供として、研修会・学会などの実施にあたり、会員とメーカーと一緒に宿泊することを自粛するという臨薬協の内規が出された。そのような企画をする時はこのことを念頭において企画するように。

#### 4) 第 50 回東北医学検査学会の進捗状況

資料に基づき阿部副会長が報告。

- ・会期は平成 21 年 10 月 31 日、11 月 1 日（前日 30 日には東北代表者会議）
- ・アレルギー学会との合同開催となる
- 1. 会場はメイン会場としてアトリオン、サブ会場としてビューホテル。
- 2. メインテーマ：つむぐ サブテーマ：五十年の輝ける軌跡と未来への一歩
- 3. 公開講演は中村征夫（写真家）、特別講演は遠藤章（応用微生物学者）、教育講演は工藤進英（医師）を予定している。
- 4. 検査展の併設を考えているが、この理事会の席で開催の是非を決定したい。検査技師をアピールできる内容で、短時間でできるものを開催することに決定。
- 5. （三浦学術部長：）学術部としてランチョン、レクチャー、セミナーなどで、「未病」なども取り上げていくことを考えている。部門長に内容について考えてもらうようお願いする予定である。
- 6. 情報交換会や会場の周辺で、秋田らしさが見える催しをしたい。

<学会運営の組織図案を提示>

支部や学術部門、事務局などに分担、担当してもらう予定。

東北代表者会議において 50 回記念学会とし承認された。まず、これまでの学会誌を収集し、記念誌の作成にとりかかかなければならない。集まって作業のしやすい中央支部に担当してもらいたい。執行部側としては準備実行委員長が窓口となる。

2 月 27 日（金）の代表者会議において進捗状況の報告をするので、もっと内容を煮詰めていかなければならない。4 月から実行委員会、それまで（3 月まで）は準備実行委員会が内容の充実を図る。

喫煙コーナーの設置に関して、職種上ふさわしくないのではという意見があったが、会場（アトリオン）にあるものなので問題としない。

#### 5) その他

平成 21 年 1 月 18 日、月例サーベイ参加施設向け解析結果伝達報告会を開催する。

案内文を 12 月の月例サーベイ試料配布時に送付する予定である。（岩手県と青森県で共通試料での精度管理を行っている。近い将来、3 県共同の精度管理も考えられることから、岩手医科大付属病院の斎藤さんから講演していただくこととなった。）

#### 4. 事務連絡

宮野事務局長：

##### 1) 日臨技エイズ予防啓発活動について

平成 20 年度の公益特別事業の健康増進啓発活動として 11 月 29 日～12 月 5 日、秋田駅西口の大型ビジョンでエイズ予防啓発の絵コンテを流す（8 時～20 時、1 回 15 秒）。

4月（生活習慣病）、8月（がん検診）に続いての事業である。2ヵ年計画（費用は2ヵ年で50万円）の一環で行っている。

菅原会長：日臨技から30万円でイベントをやってほしいということだったが、急なことで対応できなかった。これからもこのような事業の依頼があるかもしれないので、どのようにするか考えておかなければいけない。

## 2) その他

10月21日、中通総合病院の前技師長佐藤昭さんが秋田県保健功労賞を受賞した。

社団法人 秋田県臨床検査技師会

書 記 伊藤 良子

議事録署名人 宮野 勇徳 ㊟

議事録署名人 佐藤 寛 ㊟